校友時報

昭和51年3月1日
編集人兼発行所
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

明日に向かって!!

三年生、本日卒業

真横から想に吹きつけてくる能代の高塚の厳しい冬の吹雪に堪え忍び、新校舎へ移転後二年目の冬もようやく無事越したようである。冬の間、久しく見せなかった青空も時折姿をのぞかせている今日この頃である。

本日、第二八期生三三七名が卒業する。受験シーズンという季節がら、会員が参加することはできないけれども、それぞれ人間形成の上で重要な時期にある高校時代の三年間を、さまざまな想い出をもって顧みていることであろう。

椰子山の旧校舎で入学式を挙行してから、体育祭、文化祭、十里強歩、修学旅行と学校行事を重ねることに、その胸々に何かが刻まれていったことであろう。一見いつもまとまりがなく、ばらばらのような本校の校風であってもこういう大きな学校行事の時は、無言の団結と協調性を発揮して、整然とした式ができるという能高生としての自覚をもたせてくれる。これが能高の校風の一つの象徴である。「自在の像」とはこうした校風の表象とも言える。

ところで本年度は本校の創立五十周年を迎えた年であった。半世紀の歴史を正確に把握し、そして未来のための一つの区切りとして盛大でかつ多彩な式典や行事が行なわれた。昨年は移転、そして今年度は創立五十周年記念と今年の卒業生は歴史の区切れという有意義な時期にめぐり合った能高生であった。しかし、一方では「そんな学校全体のことより、生徒一人ひとりの三年間を重視すべきだ」という声も強かった。確かにそうである。学校の歴史につまでもとらわれている必要はない。

卒業生の胸の中は「三年間を充実させる」べくして励んだクラブ活動や勉学のことや友情を思い返さずにはいられないであろう。同時にこれまで見つめてきたものに上になる。それぞれの明日の目的に闘志を燃やしていることであろう。それぞれの進む道は同じでないが、心はみな同じだろう。未来に向って精一杯がんばってほしい。

なお本日、三年間無欠席、無欠課、無遅刻の者には皆勤賞が贈られる。また、体育クラブで目ざましい活躍をした者に贈られる高体連賞が、昨年度全国大会、団体でそれぞれベストエイト、ベストフォーというすばらしい成績を収めた軟式野球部の卒業者八名に贈られる。受賞者は、次の通りである。

皆勤賞受賞者

三A　大谷　隆
三C　浦鳴　浩文
　　堀内真左留
　　深谷　景二
　　一ノ関誠子
　　松岡　亨子
三F　岡本　勉
三G　加賀谷　敦
　　桧森　祥生
（以上九名）

高体連賞（軟式野球部）

高島信雄　川村一秀
長岡　操　秋林知也
秋林俊明　奈良正史
永井寿美　桜庭　誠
（以上八名）

若人の生命

学校長　小林繁春

卒業生諸君、卒業おめでとう。諸君は椰子山の旧校舎で一年半、ここ高塚の新校舎で一年半、能代高校半世紀の伝統を象徴的に体験した生徒諸君で、その意味で、本校校史上で、歴史的な意味を持った存在だということができます。

私は新任の挨拶で、諸君にこういうお話をしました。

ドイツの哲学者ジンメルは、若人の言うこと、行ないは必ずしも正しくない。しかし、彼等が言おうとすること、行なおうとすることは正しい。」と言っている。諸君の言動は、経験豊かな大人の目から見ると、必ずしも完成されたものとは言えないが、自分の言動の是非善悪にあまり気を使わず、先ずは積極的に発言し行動すべきだ。それが若さというものだ。しかし、しかしよな、その若さの言動の結果が、他人や社会に迷惑をかけたと気付いた時には、素直にそのつぐないに努力すべきだ、と。

卒業にあたり、諸君は、私のこの話を思い出していただきたい。私は諸君に、若人はたとえ間違ってもよい、積極的に活動すべきだと申し上げたいのです。

「自分はまだ若いとか未熟だから」と言って、ためらってはならない。若いうちにこそ、そうしなければならぬ。むろん多くの危険や行きすぎの独善性を伴うだろうが、『巨大な体験』の中での体験は彼の生涯に良き痕跡を残すであろう。人生は短いのだ。思い立ったとき直ちに実行すべきである。」（亀井勝一郎　いい言葉ではないか。よく味わっていただきたい。

予餞会で演劇部好評

一月六日、三時限の授業を終えて恒例の予餞会が体育館で行なわれた。

三年生が「てんとう虫のサンバ」にあわせて入場し、椅子に腰かけるやいなや例年とおりとよめきとともにステージにつめ寄り予餞会の雰囲気ができあがった。しかし、寒い中を二五分遅れて開幕となったが、ミキサーなどの故障のためギター部員の演奏もラジオの雑音のように流れ出た。再び幕がおろされ予定より三十分遅れて再開となったが、ギター部員は歌うというよりも、チョークや紙ず投げの的とされ、機材保備のためプログラムの半分も終えないうちに退場した。一生懸命に練習した彼らに「かわいそう」と同情の声が聞こえ、また、「毎年準備が十分だ」という主催者側への不満もあった。しかし、場つなぎのため飛び入りでステージに立ちユニークな歌を披露してくれた「Pの安藤君のおかげで会場は笑いの渦となった。

次に行なわれたのが「E有志による「日本プロレス対TEDカラテ」である。ヤリフを力セットに録音して流すというアイディアをもり込んだユニークな劇であったが、十分な練習を積んでなかったらしく、「しらけ」と「笑い」が半々の状態であった。昨年に比べるとストーリー性に欠けるが、「忘れて生きをあなたに」の合唱があり、意外見られぬ諸先生のピントはずれがたいへんうけた。しっかり聞いてやろうということで一時、場内が静まりかえり、卒業間近の三年生には先生の存在を身近に感じたものであり、「おっけー　たいやきくん」の合唱が、声がよく聞きとれた点では一応成功といえよう。続いて行なわれるはずの二Bの劇は主役欠席のため中止となった。

今年は伊勢先生を中心とした三年部の先生による「歌っこ」があり、「おっけー　たいやきくん」の合唱が、声がよく聞きとれた点では一応成功といえよう。続いて行なわれるはずの二Bの劇は主役欠席のため中止となった。

今年は伊勢先生を中心とした三年部の先生による「歌っこ」があり、「忘れて生きをあなたに」の合唱があり、意外見られぬ諸先生のピントはずれがたいへんうけた。しっかり聞いてやろうということで一時、場内が静まりかえり、卒業間近の三年生には先生の存在を身近にさせてくれたようだ。

また、演劇部の校内発表がこの予餞会に於いて始めておこなわれた。登場人物は一年生が二人だけだがその演技力には目を見はらされるものがあり、ほとんどの生徒が見入っていた。演劇部の将来が期待される演技であった。

今年の予餞会もまた準備が十分といえぬままで始められたが、送られる側の三年生は、「やってくれて良かった」「いい思い出になる」という声が多かった。

予餞会へ出場した演劇部

祝辞

春の息吹きが感じられる今日、卒業式を迎えられた皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは今、卒業という人生における大切なときにあたって、将来への希望と抱負に胸をふくらませておられることと思います。社会に踏み出すことは、社会人としての自由を得ることでもあり、その義務と責任を負うことにもなります。自己に対するきびしさを失わず、回りの方々の立場を尊重しながら、自らの責任において判断し、行動していただきたいものであります。

内外の情勢が激しく変ぼうする現代にあって、皆さんの清新な感覚と若々しい精神、気力あふれる実行力に期待するところは、極めて大きいものがあります。また一つの事に心を打ち込み、自分自身を鍛えたんのみが持つ、人間的なきびしさとあたたかさも、今強く求められているように思われます。本当に心からだち込めるものをもった人の、美しく気品のある生き方を学び、人間が お互いに信頼できる、心の豊かな社会を築き上げてゆきたいものであります。

そのためにも、これまで学び得たものを礎（いしずえ）として、決して安易な道を求めることなく、自らの人生を、自らの力で充実させてゆくという気概のもとに、生き生きとした大人生を送って欲しいと思います。

卒業にあたって、これまで皆さんの成長を見守ってくださった方々に感謝するとともに、皆さんが選んだそれぞれの世界で、初心を忘れず、大いに志を伸ばされるよう期待しましてお祝いのことばといたします。

昭和五十一年三月一日
秋田県教育委員会

進路志望状況

椰子山の旧校舎で一年半、能代高校半世紀の伝統を象徴的に体験した生徒諸君で、その意味で、本校校史上で、歴史的な意味を持った存在だということができます。

私は新任の挨拶で、諸君にこういうお話をしました。

ドイツの哲学者ジンメルは、若人の言うこと、行ないは必ずしも正しくない。しかし、彼等が言おうとすること、行なおうとすることは正しい。」と言っている。諸君の言動は、経験豊かな大人の目から見ると、必ずしも完成されたものとは言えないが、自分の言動の是非善悪にあまり気を使わず、先ずは積極的に発言し行動すべきだ。それが若さというものだ。しかし、しかしよな、その若さの言動の結果が、他人や社会に迷惑をかけたと気付いた時には、素直にそのつぐないに努力すべきだ、と。

卒業にあたり、諸君は、私のこの話を思い出していただきたい。私は諸君に、若人はたとえ間違ってもよい、積極的に活動すべきだと申し上げたいのです。

「自分はまだ若いとか未熟だから」と言って、ためらってはならない。若いうちにこそ、そうしなければならぬ。むろん多くの危険や行きすぎの独善性を伴うだろうが、『巨大な体験』の中での体験は彼の生涯に良き痕跡を残すであろう。人生は短いのだ。思い立ったとき直ちに実行すべきである。」（亀井勝一郎）いい言葉ではないか。よく味わっていただきたい。

進路志望状況

51年度大学入試は、新教育課程での最初の年であり、又経済状況の悪化、不況という意味からも以前とは異ったものとなった。

本校の今年の志望の特色

①受験科目の関係から北大が例年になく多く、逆に東北大の減少が目立つ事。②教育学部、農学部への志望が多い事。③若干名ではあるが、東大、一橋大、お茶の水大への志望者が居る事。④私立大学への併願が依然として多い事等

そろそろ私立大学の発表がなされて来ていますが、矢張り授業を大事にし最後までがんばって来ていた生徒が合格しているようです。

就職希望者は県内1名、県外13名で全員無事決定しています。その主なる内定先は金融関係、国鉄等です。尚今年は公務員内定者も例年になく多く、第一次合格者は14名にものぼっています。

（進路指導部）

学制度が意外と厳しく、小論文の他に面接では専門的な事項について質問などがあり、この傾向は来年度も続きそうです。

進路志望状況　2月20日現在

主要大学進学志望数（併願を含む）

（　）内の数は第2志望

大学	人数	大学	人数
一期校			
北海道	18	東京	2
岩手	20(3)	一橋	1
東北	9(1)	新潟	21(2)
筑波	7(1)	金沢	2
千葉	5(1)	京都	1
お茶の水	2		
二期校			
弘前	19(7)	山形	10(7)
秋田	53(33)	宇都宮	7(6)
私立大学			
早稲田	42(8)	東洋	37(9)
慶応	11(2)	中央	26(5)
明治	53(12)	専修	50(14)
法政	53(9)	駒沢	25(6)
日本	80(17)	京都産業	6(5)

進路種別（第1志望）

	国公立大	私立大	短大	各種	就職	在籍
A	22	19	1	1	5	48
B	8	36	0	2	3	49
C	9	26	6	3	4	48
D	11	27	1	2	8	49
E	6	35	1	1	3	46
F	30	17	0	2	0	49
G	36	11	0	0	1	48
計	122	171	9	11	24	337

学部別

人文	法経	理学	工学	農学
50	93	14	54	16
医歯薬	教育	芸術	その他	計
15	26	7	18	293

生徒手帳修正される

昨年の十一月十一日の臨時生徒総会において生徒会々則が改正された。それに伴い、新年度に発行される生徒手帳の会則の欄も改めなければならない。特に今年は不況の影響で私学の授業料が値上がりし、そのため国立の入試はますます激化する見込みだという。

▼戦後の高度成長に伴い、高等教育機関は急増したのだが、相対的に見て教育内容の充実は遅れている。そのため大学生の増加（量的拡大）より、その質の向上が要望されているのが現状である。産業界も、多過ぎる大学生の就職には応じきることが出来ず、そこから「大学を出たが、就職口が無い」という結果が生まれてくる。

▼しかしその反面、大学進学志望者は年々増加し、六十年後には大学本が過半数を超え日本社会の高学歴化が進むということだ。これは現実の社会が学歴を重視し、一人の人間はその人間性よりも出身校で将来が決定されてしまうことが原因となっている。「いい大学に入り、エリートコースを歩むことが現代人にとって唯一の夢である」という偏見が、まかり通ったとしてもけっしておかしくない時代なのである。

▼そういう中で三月一日から実施予定の「学校主任の制度化」は、いろいろな論議をよんでいる。これは文部省が発表したもので、現在の学校教育の「競争第一主義」に拍車をかけようとする試みである。しかしこれに反し、現在の学校教育体制そのものを改善しない限り「競争第一主義」がなくなることはないという見方もある。

▼実際に、戦後培われてきた学校教育を刷新するということは簡単に出来ることではないだろう。要はこれらの教育界の現状を把握し、それに対処すべき最善の方策を教育の当局者は勿論のこと、国民全体が真剣に考えるこであり、われわれ学生もこの現状に関心を強めなければならない。

点

▼三月を迎え中・高校生にとっていよいよ本格的な受験が各地で始まっている。今まで蓄積してきた学力をもとに狭き門をうまく通り抜けなくてはならない。特に今年は不況の影響で私学の授業料が値上がりし、そのため国立の入試はますます激化する見込みだという。